

## 第4学年体育科学習指導案

### 1. 単元名 「ソフトバレーボール」

### 2. 単元について

本学校は小規模校ということもあり、学校全体で子ども同士のつながりが強く、学年問わず知っており、仲がよい。その反面、保育所からの付き合いのため各個人に対する見方が変わらず、頑張りを素直に認め合いにくい環境をつくっているのも事実である。本学級の子ども達も、全体的に仲が良く、お互いの性格もよく知っているので、勉強を教え合ったり、一緒に活動したりする際には、優しく声を掛け合いながら学習を進めることができる。しかし、根気強く関わり続けることは苦手としており、自分の意見が通らない時、うまく活動が進まない時などは、「どうせできんもん」と諦めたり「○○が悪いっちゃん」などとすぐに人のせいにしたりしてしまう実態がある。

本教材は、チームで力を合わせ、攻め方・守り方やボール扱いを工夫してゲームを楽しむことをねらいとしている。運動が得意な子だけでゲームを進めていても、全員が楽しむゲームとはならない。逆に、運動が苦手だからといって、ボールから逃げてばかりいても、一緒に頑張ろうと思っている子達からすれば、楽しくはないだろう。練習試合をする→課題を解決するための練習→フィードバックという相互作用の活動を通して学習を進め、本単元のねらいを全員が達成できるよう目指す。チーム内の協力がなければ学習が進んでいかず、他者理解が必要となる。子ども達の人権感覚を育てる上でも意義深い教材であると考ええる。

本単元の指導にあたっては、各自の技術の向上と他者理解に重点を置く。技術の向上のために、毎時間チーム練習の時間を確保し、練習の成果をゲームで確認、反省会をし次の学習のめあてへとつなげる。他者理解を深めるための学習材は、チームの実態であり、話し合いで出た発言であり、活動自体である。そこで、ルールや約束、ボール扱いなどについて話し合う、振り返り活動を充実させたい。そのために、振り返りシートや振り返りの場の工夫をする。また、話し合ったことを生かすフィードバックの活動の際、参考となる練習方法やルールの提案等も子ども達の状況に応じて提示し、より楽しく学習が進めていけるよう支援していきたいと考える。

### 3. 単元の目標

- ソフトバレーボールのルールを覚え、サーブやパスを使ってゲームをすることができる。
- チームで協力し、全員が楽しめるように練習やルールを工夫することができる。

### 人権教育の視点での育てたい力

- 自分の考えや思いを持ち、進んで他者と関わろうとする態度
- 課題解決のために、他者の考えや思いを受け止めながら話し合うことができる技能
- 自分や友達のがんばりに気づき、認めることができる力

### 4. 単元計画（全7時間）

配時	目標	主な学習活動	児童への支援
1	パスやサーブの練習をしてボールに慣れ、大まかなルールを知る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームでパスの練習をする。</li> <li>2. サーブの練習をする。</li> <li>3. やさしいルールで試しのゲームをする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初めてなので苦手な子もいることを伝え、チームで協力できるような時間配分を考える。</li> <li>○ルールを知るためのゲームなので勝敗にこだわりすぎないように声かけをする。</li> <li>◎今日の学習をふり返り次回学習のめあてを持たせる。</li> </ul>
2 3 4	やさしいルールで試合をし、チームの苦手を克服するための練習をする。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームの課題に沿って練習する。</li> <li>2. ゲームをする。</li> <li>3. 課題に沿って、練習をする。</li> <li>4. ゲームをする。</li> <li>5. 課題に沿って、練習をする。</li> <li>6. ゲームをする。</li> <li>5. 学習のふり返りをする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○練習の様子を観察し、課題に応じてアドバイスをする。</li> <li>◎ふり返りの時間は、チーム全員が発言しているか確認し、声をかける。</li> </ul>

5 6 7	練習や攻め方・守り方を工夫して、他のチームと対戦する。	1. 試合に向けて練習をする。 2. ゲームをする。 3. 話し合い・練習をする。 4. ゲームをする。 5. 学習のふり返しをする。	○チームの課題を中心に練習をするよう助言する。 ◎勝敗だけにこだわるのではなく、試合の中で良くなったところに目を向けるよう声をかける。
-------------	-----------------------------	---	--

## 5. 本時

2009年10月29日（木） 5校時 4/7 体育館

## 6. 本時の目標（○体育科での目標、※人権教育の視点での目標）

- 簡単な試合の中で、自分のチームの弱点を知り、協力して個々の技術やチームワークを高める。
- ※ 友達のがんばりに目を向け、相手の立場に立ったアドバイスや関わりができる。

## 7. 本時指導の考え方

本時は、ゲームのルールを覚え、レシーブ、パス、サーブなどを、多くの子が少しずつできるようになってきた段階である。そこで、簡単なゲームをし、さらに苦手を克服するための練習を各チームで考え、全員の技術力向上を図り、次のゲームで確かめる。ゲームと練習を交互に繰り返し、子どもたちの意欲も継続させていきたい。

本時学習での相互作用の活動は、チームごとの練習であり、ゲーム中の仲間との対話である。この段階の子ども達はゲームにも慣れてきて、勝敗ばかりにこだわる子が出てくることや、運動能力の差も開いていることも予想される。チームによっては、特定の上手な子のみでゲームを進めたり、ミスした子に暴言を吐いたりすることも考えられる。相互作用の活動を通して他者理解を深め、ボールの扱いが上手下手のみで決めつけるのではなく、自分と他者の関係が同等であることを認め、苦手な子が落としたボールをカバーしたり、励ましたりしながら、チーム全員で勝利を目指す集団へと高めていきたい。

また、相互作用の活動がより一層高まるように、試合の時間は短くし、練習のための試合とする。試合の間に、簡単な話し合いと練習の時間を設け、練習したことをすぐに、次の試合でフィードバックさせる機会を持つことで、自分たちの考えや方法がチームにとって合っているものであったのか実感させたい。学習の最後には、自分たちのチームの練習の様子や試合での作戦などがうまくいったかの話し合いをし、次時学習へのめあてへとつなげる。

## 8. 本時の展開

配時	学習活動	児童への支援	評価の観点
5分	<p>1. 準備運動をし、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>練習したことを試合で確かめながら、チームワークをさらに高めよう。</p> </div>	<p>○勝敗だけを目指すのではなく、チーム全員が楽しめる試合になるよう本時学習への意欲を持たせる。</p>	<p>○本時学習のめあてを持ちながら話を聞くことができる。</p>
5分	<p>2. 体をほぐしながら練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出し、チームの雰囲気をつくる。</li> <li>・サーブの練習をする。</li> </ul>	<p>◎チーム全員で練習ができていないか確認する。</p> <p>○けがのないように、十分に体をほぐすよう、声をかける。</p>	<p>○友達のがんばりをほめたり励ましたりながら練習をすることができる。</p>
3分	<p>3. ゲームをする。</p>	<p>○ルールを守ってゲームを進めているか確認する。</p> <p>◎盛り下がっているチームがあった場合は、励ましの声援をかけ、チームの雰囲気がよくなるよう支援する。</p>	<p>○ルールを守って試合をすることができる。</p> <p>○あきらめず最後までボールを追いかけることができる。</p>
5分	<p>4. ゲームをふり返り練習をする。</p>	<p>◎各チームの練習の様子を観察しながら、アドバイスをする。</p>	<p>○積極的に練習することができる。</p>
3分	<p>5. ゲームをする。</p>	<p>○ルールを守ってゲームを進めているか確認する。</p> <p>◎声かけをしながら活動するチームを賞賛する。</p>	<p>○ルールを守って試合をすることができる。</p> <p>○あきらめず最後までボールを追いかけることができる。</p>

5分	6. ゲームをふり返し練習をする。	◎各チームの練習の様子を観察しながら、アドバイスをする。	○積極的に練習することができる。
3分	7. ゲームをする。	○ルールを守ってゲームを進めているか確認する。 ◎声かけをしながら活動するチームを賞賛する。	○ルールを守って試合することができる。 ○あきらめず最後までボールを追いかけることができる。
5分	6. 活動のふり返しをする。	○個人のふり返しができるようなふり返しカードを準備する。	○本時学習のふり返しをすることができる。
5分	7. 全体で本時学習をふり返る。 ・自分のがんばり ・友達のがんばり ・次時学習のめあて	◎次時活動も頑張ろうという気持ちが出てくるよう、頑張ったところをみんなで共有する場面を持つ。	○進んで発表している。